

平成 30 年度「公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果」における評価委員会意見の反映状況について

区分	小項目（評価委員会による評価）		評価委員会意見の反映状況
	評価委員会による意見・コメント等	掲載頁	
教育研究等の質の向上	大学院教育（B）		
	○平和学研究科の開設に取り組んだ実績は評価できるが、入学者が少なかった点が残念である。特徴のある研究科なので、より広く周知をされたい。入学試験区分も柔軟な対応が求められる。	16	平和学研究科のホームページ（日本語、英語）を作成し、カリキュラムや入試情報等を発信するとともに、国内外の大学等の訪問、進学説明会の開催などの広報活動を展開した。研究科開設2年目の令和2年4月入学者数は7人となり、前年度の入学者数（2人）から大きく増加した。 平和学研究科での修学支援として、研究科設置当初から、社会人を対象とする学費無償制度を設けているほか、令和3年度から、寄附金を原資とする給付型奨学金を創設することとした。
業務内容の改善及び効率化等	自己点検及び評価（B）		
	○教員並びに各部局の自己点検・評価の実施とデータの分析・情報公開と共に学生からの意向調査の実施の検討も必要になってくる時代である。	50	全教員が「年度計画・自己点検結果シート」を作成することで、毎年度、自己点検・評価を実施している。 学生の意識等を把握するため、新入生・在学生・卒業予定者を対象とした調査を開始した。学習環境や意欲、進路等に関する項目に対しての回答を集計・分析し、更に経年変化等を調査していくことにより、多様性・個別性が進む学びに対応し、教育・学習サポートの充実等に活用していく予定であり、そのシステムづくりを進めている。
	その他業務運営（B）		
	○施設や設備の維持管理は次第に大きな課題になってくる。その為の対策として作られた広島市立大学保全計画の見直しについては、地道に検討していかなければならない。	51	広島市立大学保全（長寿命化）計画について、所要の見直しを行うとともに、施設保全（長寿命化）実行計画を策定の上、施設の劣化診断結果に基づいて、施設大規模修繕サイクルの見直しを行った。また、施設保全（長寿命化）実行計画を効果的に実施するため、令和2年度から、施設の保全と日常の点検・管理を総合的に行う施設総合管理業務契約を締結し、施設保全管理体制の強化を図った。